



## 9 学校改善策(1月~2月)「評価のための評価にしない」 改善してよりよい学校をめざそう!

報告書を作成するのが最終目的ではありません。学校は、学校自己評価や学校関係者評価の結果を受けて、自分たちの取組を改善したり、次年度の目標設定、具体的目標、具体的方策などの評価計画、学校評価活動について改善したりします。

すぐに改善できることは、速やかに取り組みましょう。目標設定や評価活動など次年度に向けて、改善していくものもあります。

これは、学校がよりよい教育に向けて努力することの態度を保護者や地域住民に示すものです。学校関係者評価からの意見を前向きに受け止め、その意図を理解し、柔軟に対応することが大切です。

### 職員みんなで考えて できるところから 改善しよう

改善策を立案するときには、次のことに留意しましょう。

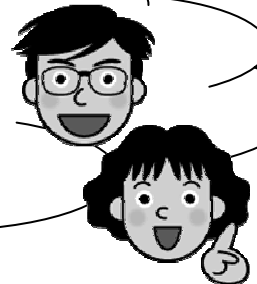
- ① 学校自己評価結果への学校関係者評価後、今後の改善策を立案しましょう。
  - ☆ 取組の継続、修正、新設、廃止などを検討しながら改善策を考えましょう。
- ② さらに学校自己評価及び改善策の見直しを行い、今後の目標設定や学校評価活動の改善にも反映させましょう。
  - ☆ 学校関係者評価委員の意見と学校自己評価結果が大きく違ったときには、考えてみましょう。

・ 評価の違いが生じたのはなぜだろう。

子どもの姿が見えてない? アンケートは? 情報提供は?

・ 学校自己評価では見えなかった課題は何だろう。

・ 学校自己評価を学校や教師の価値観だけで行っていないか。



- ③ 改善するには学校だけでは無理なこともあります。教育委員会による支援をお願いしながら、教育委員会とも連携しつつ改善を進めましょう。

### 合い言葉は、「共有化」「共通理解」「共通実践」

改善のためにも、教職員全員が心をひとつにして取り組むことが大切です。そのためには、校長のリーダーシップの下、みんなが組織の一員であることや自分の役割を自覚して、前向きに改善に取り組みましょう。

資料P57P58

- ① 教職員の共通理解のもと、新年度の教育計画に位置づけます。
- ② 教育計画書と教育活動、学校評価を連動させるようにしましょう。
- ③ 校内の運営機構や年間指導計画等見直し、体制づくりなどを整備しましょう。
- ④ 新年度の新体制の中で、改善策を意識した学校運営を行います。

## 9 学校改善策 実践例 (一部抜粋)

〇〇小学校

●3つのアンケート(教職員・児童・保護者)をもとにした考察と課題及び課題改善の方策

### 【安全安心プロジェクト】

考察と課題(担当)	課題改善の方策(短期・中期・長期)
<p>1 登校班での登校が好ましくない状況の班がある。 ○班長の自覚がない。 ・他の班とのおしゃべり。早足。 ○班で登校する気がない、あまりない。 ・日常的な車での登校。集合に遅れる。 ・班長の言うことを聞かない。</p> <p>2 言葉遣い、話すときの態度が悪い。 ・呼び捨て、あだ名。命令調の言葉。 ・大人への言葉遣い、態度。</p> <p>3 「きまり」に対する規範意識が薄い。 ○交通ルール・マナー ・自転車の2人乗り。ヘルメット非着用。 ○学校のきまり ・廊下走り。低学年児童の自転車乗り。 ・カラオケボックスに行く。等 ○社会常識・地域のきまり ・菓子を学校で食べる。・ゴミを散らすなど。</p>	<p>○年度のかわり目に、校内での班長への指導の時間を十分に取 り、自覚を促す。(中)</p> <p>○朝の交通指導で、問題に気づいた職員は、地区担当に知らせ、 該当班を指導する。(短～長)</p> <p>○担任が、家庭と連絡を取って理解と協力を求める。(中長)</p> <p>○呼びかけを繰り返す。耳にしたら強く指導し、「友達を呼び捨 てにしない」、「あだ名で呼ばない」を徹底する。(短中)</p> <p>○職員室への入退室時の挨拶を、良い姿勢で言わせる。(短～長)</p> <p>○「学校生活のきまり」等を用い、児童と保護者に「きまり」 を確認する。(短～長)</p> <p>○児童が「きまりを守らないのは許されない」という意識を持 つように、情報収集し厳しく指導する。(短～長)</p> <p>○学校評価アンケートの回答などを利用し、保護者にも協力を 求める。(短～長)</p>

### 【開かれたプロジェクト】

考察と課題(担当)	課題改善の方策(短期・中期・長期)
<p>○総合的な学習や生活科などで地域の人と交流する 機会をもうける。 ・教職員アンケート、保護者アンケート共に、おおむ ねプラス評価を得ている。 ・総合的な学習の時間の「地域的な課題」を各学年 で学習しており、学習のねらいに沿って、地域に出 て学んだりGTを呼んだりして学習している。</p> <p>○嬉野学習発表会を開催し保護者に総合学習の成果 を発信する。 ・研究発表会の日程の関係で、学年で実施した。</p> <p>○教育活動に必要な情報を積極的に発信する。 ・教職員アンケート、保護者アンケート共に、おおむ ねプラス評価を得ている。 ・HPによる情報発信 — 現在月に10回ほど更 新している。</p> <p>○全員役員制のPTA活動を活性化する。 ・保護者のアンケートから、おおむね活動できてい るよう感じられるが、マイナス評価の割合が高 い。「活動が一部の人に偏らないように…」の記 述あり。</p> <p>○学校評価の方法や内容について評価する。 ・開かれた部会では、全校的な立場で考えにくく、 なかなか取り組みにくい。</p>	<p>・今後も継続して地域に出での学習や地域人材を生かした学習に 取り組む。さらに、地域人材の発掘をして体験活動や調べ学習 を充実していく。</p> <p>・人材バンクの充実を図る。人材バンクに対しての教師の意識を 高める。協力をいただいた方を必ず登録する。アンテナを張り 学習に生かせる人材を発掘する。</p> <p>・校外学習計画・連絡を早くし、周知をする。(月・週・日行事)</p> <p>・H21年度は嬉野市教育の日に嬉野学習発表会を開催し、学習 の成果を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>・HPや携帯サイト、校長日記を継続して更新をし、子どもたちの 様子や保護者に必要な情報(行事予定など)を中心に情報を発 信する。</p> <p>・緊急時には緊急メールを利用して、情報を発信する。 ・緊急メールの登録を定期的に呼びかける。</p> <p>・各部の人員配置のバランス、個人の希望を考えて各部を構成、 保護者の意欲を高めるように努力する。</p> <p>・各部での活動のあり方(当番制など)を検討し活動に参加しや すい状況をつくる。</p> <p>・各プロジェクトの代表などで構成する学校評価委員会の組織を つくって取り組んだ方が学校評価を全校に活かすことができる。</p>